

改題

# 土楽たより

どうらく

Kogure 農場 9月号 (NO41)

2013年9月10日 (火) 発行 (毎月10日)

## 【農暦】“具体的に動くことだね”がいい!

○酷暑が続いている中で、西日本から日本海側は豪雨に豪雨が繰り返され、2日に埼玉の越谷と千葉の野田で4日には栃木の矢板で竜巻が発生している。昨年の茨城の北条の竜巻の被害と同じ様な被害を出している。異常気象が日常化して来ていると述べて来たが、日常化すると異常でなく通常になってしまう。気候が変わってしまった様に思える。7日は二十四節気の白露に当たる。白露とは、大気が冷えてきて露を結ぶころのこと。ようやく残暑が引いていき、本格的に秋が訪れて来ます。とある。確かに、ここ数日朝夕は過ごし易い気候になって来ている。だが、予報では暑さが戻ると云っている。最近の雨は、熱帯のスコールのような話していたが、シトシト雨はなくなった。豪雨か日照りで激しく変化する。温暖化で海水温が0.57℃?上昇した事と気流の流れが変わった事が天候を変えたとテレビで説明していた。最近の雨も雷も怖い。巨大な積乱雲もブキミである。勝手放題の人類に大気が怒り狂って襲って来ている様に感じる。

○先月号で、小さな良い循環を作って行きたいと、優先順位を変えて、収穫し、少量でも出荷するようにしている。と述べたが、その結果は、草の繁茂力に完敗である。酷暑と体力とイベントとそれに頑張らない事にするなどで、農作業の時間を極端に少なくしてしまった事に主因はある。今は収穫に優先してでも除草している。ジャングル化した畑の除草は数倍のエネルギーを要する。細々ながら収穫の成果はある。雑草を見るのは辛いが良いことにする。今年を、見直し改革の年と考えているので、これもやむなしと思っている。

○話は少し変わるが、我が家のトイレには相田みつをの日めくり(1日から31日繰り返しのカレンダー)がある。今日(9日)は“この我執の強さ、そして、この気の弱さ、共に佛さまがわたしに授けてくれたもの”とあった。今の私にぴったりの言葉は12日の“アノネ、がんばんなくてもいいからさ、具体的に動くことだね”である。やりたいことやらなければと思っている事が一杯あるのに、いろいろなことで、頑張る事が出来ないでいる。いらつく心がある。こんな状態にある時に、除草などほんの僅かでも農作業をするだけで、やった分だけ爽快な気分になれる。当にこの言葉である。30日の言葉は“一生燃焼、一生感動、一生不悟”である。人生かくありたい。人生



＜みどり鮮やかなゴウーヤ＞手入れしなくても確り実を付ける。昨年自家採種した短い種。21日撮影

訓である。独特の墨筆も視覚的に伝わるものがある。改装したからだけでなく、御不浄でなく、トイレ爽快である。相田みつをの言葉には、日頃思っている事を言い当てられる。やる気や戒めや元気を頂けるような気がする。停滞気味の農的生活の中で“具体的に動くことだね”はキーワードになる。

○トマトなどの夏野菜は終りつつある。お盆過ぎにはと云われた白菜の播種を30日にした。定植が何時できるか発芽した苗の生育を心配している。暑さから開放され、これからは農作業を頑張らなくても進むと思う。

### 【楽農】 トマトなどの収穫と草刈り！

<ハウス> ; トマト、シシトウ、青とうがらしの収穫。

<畑A> ; トマト、茄子、ピーマン、ゴーヤの収穫。

<畑B> ; 黒豆、黒小豆、小豆、金時など成育中、シシトウ、白茄子の収穫。

\*草取りを適宜行い。ジャングル化した周辺や畑の草刈りを行う。暑さと乾燥にも関わらず草の繁茂力衰える様子がない。雨後は驚きの成育力でやり残しは増える。



<マイクロトマト>甘くて美味しいと、それにリコピンがある。私の周辺では人気。21日撮影

### 【楽市】 イベント交流・直売など

○男女共同参画推進フォーラムに参加（23日のみ）

・埼玉の嵐山町の国立女性教育会館で22日から24日行われたフォーラムに参加した（【つぶやき】参照方）。

○笠吟連の交歓吟詠会に参加（7日）

・恒例の会に参加した。泉岳寺、江戸東京博物館、スカイツリーなどを見学する。

○その他；

・栗栽培講習会（11日）、松葉町まつり（24日）

OB会（5日）などに。グリーンジムの8月は休み。



<松葉町のふるさとまつり>大勢の人で溢れる。近くの公園から花火も。24日撮影

### 【つぶやき=Tweet】「里山資本主義」に共感！

○前回、明るい話題にと下ネタばい事を書いたが何となく冷たい反響を感じた。開高健や吉行淳之介の下ネタの本を大分前に読んだが、ニヤとした楽しいものであった。今でも開高健の“便器になった黒人の話”などは覚えている。私のものは、紳士を装ったエロ爺が出ているのかも知れない。そう思うと書き辛い。次に書く時は、開高健のように出来ないうまでも、エロ爺であるが紳士である様なものにしたい。ただ、人間味ある下ネタで温かい情感？を共有したいと思うだけである。

○「男女共同参画推進フォーラム」～女性の活躍で日本を元気に～に誘われて、いやいや

参加した。お義理の参加なので余り期待するものはないと思っていたが、とんだ思い違いであった。ワークショップ2とパネルディスカッションに参加でした。ワークショップ2では「源氏物語に学ぶ男女共同参画」に参加した。源氏物語の54帖の内39帖の夕霧に、紫式部の思いがここだけに書かれており、“女性の地位や扱われ方やあり方が判る”と解説された。パネルディスカッションではパネリストは佐藤良子・立川市大山自治会長、森川典子・年商6兆円のボッシュ（株）副社長、藻谷浩介・日本総研の主席研究員、コーディネーターは野村浩子・日経マネー副編集長で行われた。女性ならではの細やかさや男性とは異なった資質や立場から活動の素晴らしさが伝わった話が聞けた。黒一点の藻谷さんは経済データなども使い「虚の経済（日銀のデフレ対策など）」と「実態経済」の話をされ、実態経済の中で女性の活動が大きいこと。地方・田舎程女性が働ける条件があると云われ、女性の社会参画で、グローバル経済の影響が少ない田舎にこそ可能性があると言われた。



＜男女共同参画推進フォーラムのパネルディスカッション＞ここで「里山資本主義」ことを聞いた。23日撮影

○この話の中で言われた“「里山資本主義」（角川書店）藻谷浩介の近著”は興味深いものがあった。今読んでいる途中であるが、“グローバル経済からの奴隷解放”や“過疎の島こそ21世紀のフロンティア”の文言がでてくる。私は嘗て街づくりや生涯現役のライフスタイルをいろいろ構想した時に、世界の金融資本や貨幣経済から離れた豊かさについて考えた事がある。それは“グローバル経済からの奴隷解放”と同じか似た考え方であったので、即座に共感をしてしまった。“円”ではない地域貨幣、地産地消などで地域循環型の経済の推進などで地域コミニターの活性化を考えた。どこでもやっている事である。ただ違うのは、地方資源の使い方やお金本意でないあり方だと思った。この活動には当然ながら女性の活動領域は圧倒的に増える。そして、今ある社会の不安や課題は解決に向うと云うシナリオが描けると云うのである。判りづらい紹介をお詫びし、失礼を承知で、読了していない本の購読を薦めたい。そして、この企画にお誘いしてくれた人に感謝したい。

○8日は、2020年のオリンピックが東京に決定の報に熱狂して喜ぶ姿がテレビに映し出されていた。トップアスリーの競技が今から楽しみである。だが巨額の投資と費用が伴う。日本の社会（経済）はオリンピックに関わる中でどうなるか、また、藻谷さんの「里山資本主義」の立つ場からはどうなるか知りたい所である。表面だけでなく裏面からの覚悟があるような気がするからである。真に“人類の祭典”になる事を願うだけである。

【後記】実りの秋の到来、栗の時季です。  
笠間に、kogure農場にお越し下さい。  
【特に編集せずランダムな構成にします】

発行者；Kogure農場・小暮虎雄  
住所；笠間市本戸4201-10  
携帯電話；090-9333-4135  
メール；[torao-k@nifty.ne.jp](mailto:torao-k@nifty.ne.jp)  
HP；<http://homepage3.nifty.com/toragigi/>